

静岡市長賞

静岡市立富士見小学校6年 山内 翔平

「やっぱり親子」

ぼっちやりしている

まあるい母さん。

ぼくもちよっぴり似ちやったよ。

ほかにどこが似てるかな。

さがしてみたら、まだあるな。

かとり線香の

においがすきで、

それから、えくと

鼻の上に汗をかくところ。

あわてんぼうはどうだろう…。

親子っていいね。

親子っておもしろい。

親子ってうれしいな。

母さん、これからもよろしくね。

静岡市議会議長賞

静岡市立千代田小学校 4年 井本 陽奈

「プリンのおなか」

ブルルンルン、
プリンみたい。

ポニヨポニヨポニヨ、
マシユマロみたい。

気持ちいいな、
食べちゃいたい。

さわっていると、
ねむくなる。

わたしが生まれたこのおなか、
はたらきもののこのおなか、
いつまでも元気でいてね。

静岡市教育委員会教育長賞

静岡市立西奈小学校6年 宮本 和征

「朝の郵便屋さん」

「いってらっしゃい。」

この声で、朝の僕に気合いが入る。

この声は、僕への大切なおくり物。

道でふり返ると、手をふる笑顔。

お母さんは、元気な僕を学校に送る、郵便屋さん。

“気をつけてね”と切手をはって。

一日分の返事を持って元気に帰って来るよ。

いつもありがとう。

静岡市校長会会長賞

静岡市立蒲原中学校 2年 稲井 瑞帆

「なくもんか！」

「なくもんか！」
父の口ぐせだった

私は幼いころ 泣き虫でよく泣いた
そんなときによく言われた言葉だ

私は なぜ泣きやまなければいけないのか
分からなかった
幼い私は 分からなかった

父が亡くなった
私は思いつき泣いた
声が枯れるまで泣いた

そして父の言葉を思いだした

「なくもんか！」
私はもう泣かない

静岡市PTA連絡協議会会長賞

静岡市立西豊田小学校 6年 進藤 茉乃

「お母さんは天使で悪魔」

天使の時はごはんの時、お茶が出ている。

天使の時は、ちゃんとノックしてから部屋に入ってくる。

悪魔の時は足音が大きい。

悪魔の時はわたす物をなげてくる。

天使のお母さんは好きだけど、悪魔のお母さんはきらい。

天使にするのはむずかしい。

けど、悪魔にするのはかんたん

わたしは、お母さんが天使でいられるよう努力している。

だが、つうじない。

いつになったらつうじるのだろうか

天使でいてね、お母さん。

優 秀 賞

静岡市立由比小学校 6年 佐藤 公彦

「百科事典」

なぜだなぜだと

たくさん質問するぼくに、

百科事典のように

くわしくていねいに説明する

お父さん、

「ありがとう。」の

ふせんをあげなくちや。

優 秀 賞

静岡市立井宮北小学校 4年 松本 華奈

「わたしのお父さん」

私の心が曇りのとき、静かに、そばに、いてくれる。

私の心が雨のとき、さりげなく、かさを、さしてくれる。

雨がやむと、明るい太陽の、ような、笑顔をくれる。

そんな、お父さんが、大すきだ。

優 秀 賞

静岡市立美和小学校 6年 川口 美和

お母さんと話していると

心がいつも

太陽の色

あたたかいな

たのしいな

この気持ち

心のおくの

倉庫にしまつて

きおくからけさないよ

優 秀 賞

静岡市立竜南小学校 4年 渡辺 早紀

お母さんは毎日大変
そうじ

せんたく

食器洗い

見ているだけで目が回りそう

だからときどき

かぜもひく

でも当たり前

だってお母さんは

学校みたいにお休みがないもの

お母さんは「猫の手もかりたい」

って思っているんじゃないかな

そんな時は猫じゃなくて

わたしがお手つだいしてあげよう

優 秀 賞

静岡市立服織小学校 6年 湯沢 陸人

「今日も明日もテクテクテク」

父さん母さん、
今日も明日も、
テクテクテク、

休みもとらずに、
テクテクテク、

父さん、清水へ、
テクテクテク、
母さんお茶屋へ、
テクテクテク、

帰って来たよ、
テクテクテク、

みんな家に集まり、
ケタケタケタ、

笑顔がいいね
ケタ、ケタ、ケタ。

優 秀 賞

静岡市立清水入江小学校 4年 吉田 直人

「えがお」

えがおのすてきなばあば

いつもにこにこしている

そんなばあばがとつぜん

死んじゃった

ばあばのかわりに

ぼくがすてきなえがおをする

だから空からみていてね

ぼくのすきなばあば

優 秀 賞

静岡市立清水飯田小学校 4年 水田 彩花

「おじいちゃんの作業場」

おじいちゃんの作業場は
いつも 木のおい
新しい木にしかない
とくべつな いいにおい

家を建てる木
きれいにならべられた長い木
まとめられた木のチップ

いろんな木のある作業場
がんばるおじいちゃんのしるし

優 秀 賞

静岡市立中島中学校 2年 鈴木 隼哉

「朝の様子」

朝、目が覚めた
目をつぶりだまっ
ていると
家中から音が聞こえてくる

テレビの音

水道から水が出る音

洗たく機が回る音

扇風機の音

そうじきの音

家中から聞こえてきた
家の中で物がいっぱい動いてる
ことに気付いた
でもその中で
母が一番忙しそうに
動いていた

優 秀 賞

静岡市立長田西中学校 2年 高松 莉奈

「毎日、毎日」

「行ってきます。」

「行ってらっしゃい。」

お父さんはいつも私が家を出る時
玄関まで見送りに来てくれるね。

新聞読んでても、歯をみがいても、

ネクタイをしめていても、必ず走ってきて

「行ってらっしゃい。」の一言。

自分も仕事があるのに、急いでいるはずなのに
見送ってくれるから

その一言で、

「今日も一日頑張ろう。」

って思えるよ。

いつもはずかしくて言えないから今度ちゃんと言おう。

いつも ありがとう

優 秀 賞

静岡市立清水第八中学校 2年 末田 泉名

「工事のおじさん」

毎朝

「おはよう。」

雨でも

「お帰り。」

暑い日も寒い日でも
ちよつと笑って言ってくれた。
名前も知らない工事のおじさん。

最初は恐くて不思議で
会釈だけで逃げていた。
でもちよつとずつ声を出して
目を見て、挨拶ができた。

おじさんは、私が小学校を卒業するって事を、
覚えていてくれた
数ヶ月も前の話なのに。

私が中学の入学式の帰りに
小学校に寄ったとき

「最後に」いつもの下校路を通って帰って見た。
おじさんは
まだ少し寒い日だったけど
にっこり笑っていた。

「入学したんだね。おめでとう。」
ふくらんだチョッキから

ビニール袋を取り出した。
そして、ちよつとはにかみながら
さつまいもを手渡してくれた。
自分で作ったさつまいも。
私の大好物のさつまいも。

それから数ヶ月。
おじさんはいつもの場所には
いなかった。でもね、
毎日した挨拶もさつまいもも。
私はずっと覚えています。
おじさんのおかげで、
私の心はぽっかぽかです。

優 秀 賞

静岡市立清水庵原中学校 2年 大石 実沙

「さびしくない理由」

私の家は母子家庭

お父さんは、私が生まれる前に
亡くなった。

お母さんは私によく

「さびしいよね。ごめんね。」
と言ってくる。

でも、私気づいているんだよ

お父さんが亡くなってから、

一番さびしいのは

一緒にいたお母さんだよね。

私が「さびしいのはお母さんでしょ」
って聞くと

「あなたが生まれてきてくれたから、お母さんはさびしくな
い。」

って答えるね。私もおなじだよ

お母さんが一緒にいてくれるからさびしくないよ。

だから無理しないで、私を頼って

お母さん、おつかれさま、

ありがとう。

優 秀 賞

静岡市立清水興津中学校 2年 松永 優也

お父さんは
野球が大好きだ。

ぼくにも

野球をやらせたかったと

言っていた。

でも、

ぼくはサッカーをやっている。

お父さんに言いたいことがある。

でも、恥ずかしくて言えない。

キャッチボール、いっしょに

やろう、と。

優良賞

静岡市立駒形小学校 6年 富坂 聡子

お父さんは、すごい。

私が5才の時、お母さんは病気になった。

それからお父さんは、一人で家のことをなんでもした。だからお父さんはすごい。

いつもは、はずかしいから言わないけど、

「ありがとう。」

優良賞

静岡市立井宮小学校 4年 国保 和奏

「尊敬する大人」

三月十一日、地震が日本をあくまのようにおそった。

わたしも被災者の一人だ。

地震がきた時はちようど帰りの会。

すごい揺れだ。

その揺れは、震度七。

泣いている人だっけっていっぱいいた。

そんな中。

わたしの先生は子どもたちを
むねをはってたすけてくれた。

そんな先生をわたしは、

尊敬している。

優良賞

静岡市立井宮北小学校 4年 片井 瞳

「わたしの家族」

かわいいねと言うママ

大切だよと言うパパ

いつもいつもありがとう

ひとつだけの小さな家族

とびっきりの家族

みんなみんな大好きだよ。

優良賞

静岡市立安東小学校 6年 津谷 なつみ

「タンポポ」

母は今日も笑ってた。

母は今日もため息をついた。

かくそうとしたって、

私には、わかる。

つらいのだろう。

つかれているのだろう。

それでも、わが子には、

心配をかけないように

ずっと笑っていようとする。

私には、わからない。

なぜ、そこまでするのか。

なぜ、がまんできるのか。

私には、不思議なことばかり。

どんなにつらくても、

どんなにつかれても、

母は笑っていた。

その笑顔は、強くて、やさしい

「タンポポ」のようだった。

優良賞

静岡市立中島小学校 6年 黒柳 智子

「大人の一言」

悲しい時

つらい時

いやな事があつた時

大人は

「大丈夫だよ」

「みんなみかただよ」

と言ってくれる

その一言で心が

ほっとする

その一言で心がかかるくなる

うれしかった時

楽しかった時

大人は

「よかったね」

と言ってくれる

その一言で心がウキウキする

大人の一言はとってもすごい

優良賞

静岡市立大里西小学校 6年 村松 蒼唯

「私の気持ち」

親とケンカして

親と別れて

一人すわって

泣いていた。

「わかっていないよ

私の気持ち。」

つぶやきながら

だまっていた。

とつぜん母が

近づいて、

なみだ流して

語り合った。

話が終わり

ろう下に出たら

母がだきしめて言った。

「いつも分かってるよ

アンタの気持ち。」

胸が何故かあたたかい。

優良賞

静岡市立東豊田小学校 6年 川嶋 ひかる

「手紙」

小さい頃、
毎日お母さんに手紙を書いていた。
この間、小さい頃書いた手紙を 見せてもらった。

へんな字
へんな絵

「は」が「わ」になったり
「木」が「大」になったり

でも、「だいすき」って字が
たくさん書いてあった。

最近、手紙を書いてないな。

でも、小さい頃と気持ちは変わってないよ。

優良賞

静岡市立長田東小学校 6年 山口 甚郎

「大切な人」

ボクのバアちゃんは、老人ホームへ入ってしまった。

バアちゃんは、「さみしい、さみしい」って言う。

ボクも悲しい。

面会に行くと、うれしそうに笑って

ほっぺをギョツとつけて抱きついてくる。

いつの間にかボクより小さくなって、なんだかかわい。

帰る時、いつも「行かないで。」と泣いてるね。

ボクも涙が出てくるよ。

ボクが大人になったら、大物になるから。

大きい家にいっしょに住もうね。

だからもつともつと長生きしてほしい。

ボクのためにも

長生きしろよ。

優良賞

静岡市立清水袖師小学校 6年 松倉 菜々子

「ほっとするよ」

学校でいやなことがあった

帰ったら

お母さんがいた

ほっ。

全部お母さんに言ってみた

ほっ。

「なんとかなるよ」

ってお母さんが笑ってた

ほっ。

お母さんがいると、心がほっとするよ。

優良賞

静岡市立由比小学校 6年 片山 諒

「優しい母」

オレンジだ。

かすかに光る母のまなざしは、
いつもぼくをやさしく見守っている。

赤色だ。

心にひびく母の声。
どんなやみも明るくてらす。

悲しい時、

つないでくれるその手は、
とても温かくてやさしい手。

優良賞

静岡市立城内中学校 2年 白土 昌健

「おとう with お酒」

おとうはいつも
七時には帰ってくる。
早いときは四時だ。
僕の帰りよりも早い。
仕事してないのかな。
いや毎日、白衣のにおいが：
早く帰ってきてお酒を飲む。
だから顔が赤い。
日曜日なんか朝から赤い。
そんな時はおこつても恐くない。
でも、お母さんが出かけていたり
仕事で帰りが遅いとき、
おとうがご飯を作ってくれる。
不器用な男の男飯だ。
でも、味はイケてる。
作り終わるとまたお酒、
テレビを見ながら笑ってる。
やっぱり何かテキトーだ。
でも、そんな顔の赤いおとうが
僕は好き。 いつもありがとう。

優良賞

静岡市立大里中学校 2年 北川 滯

「母親」

朝起きると朝食ができている

学校から帰ると夕食ができている

お風呂から出ると飲み物がある

寝る前には布団がしいてある

いつもそれが普通と思っていた

でもそんなことない

お母さんはいつも僕に笑顔を見せる

大変だって言えばいいのに

やっぱりすごいな

優良賞

静岡市立観山中学校 2年 山田 向日葵

「太陽」

私のお母さんは
いつも笑っていて
太陽みたい
だから私は
太陽の子の向日葵だよ
お母さんの子で
本当に良かったよ
だって、一緒にいると
ずっと笑っていられる
そんな時が一番幸せ
私もお母さんみたいに
みんなの太陽になりたいな
私といえば
みんなが笑顔になれるような
そんな人になりたいな
これからもずっと、
お母さんのことを見てるからね
私は
ずっと笑顔で太陽みたいな
お母さんが大好きだよ

優良賞

静岡市立豊田中学校 2年 南條 彩子

友達とケンカした日も
いやなことがあった日も
温かいご飯と「お帰り」の言葉

寒くて寒くて
こごえそうな日は
温かいココアと「お帰り」の言葉

毎日毎日変わらない
「お帰り」の言葉
毎日毎日変わらない
お母さんの愛情が
いっぱいいつまった
「お帰り」の言葉

私の心をポカポカ暖かくする
魔法の言葉

「お帰り」の言葉

優良賞

静岡市立東豊田中学校 2年 小林 紗奈

「両親」

「ありがとう。」

とうとう今年も言わなかった。

「母の日。」

忘れたふりをしていた。

「父の日。」

そうだったっけ？と笑った。

「母の誕生日。」

みんなおめでとうって言ったのに

私だけ言わなかった。

でも、

「私の誕生日。」

お母さんは、おめでとうと言った。

お父さんは仕事場から電話をくれた。

「ありがとう。」 「おめでとう。」

言いたい事はたくさんあったのに言えなかった。

きつとこれからも言えないと思う。でも、

「ありがとう。」 いつも感謝しています。

佳 作

静岡市立井宮小学校 6年 小泉 七海

「安全とあいさつと」

毎朝、信号の前に
たつてくれているガードリーダーのおじさん。

あいさつをすると
笑顔で返してくれる。

だから次の日は笑顔で
あいさつする。
そうすれば、友だち 地いきの人
色々な人にあいさつする。

あいさつすれば笑顔になる、
うれしくなる。

私がいさつをするように
なったのはガードリーダーさんのおかげ。

ありがとう。

佳 作

静岡市立葵小学校 6年 鈴木 美南

「木」

お父さんは水
お母さんは太陽

まだ小さな芽をだした
ばかりの苗の私

お父さんは
雨にうたれ 風にふかれて
倒れそうな私を助けてくれる

お母さんは
栄養がへり 苦しくて
弱っている私を包んでくれる

いつか大きな木になるために
副木のような存在になれる様に
前を向いて育っていく
ありがとう

佳 作

静岡市立横内小学校 4年 渥美 結日

「わたしって、あいされているな」

兄弟の中でだれが一番すきって聞いた。
順番なんて決めれない。

大好きをどう表げんしたらいいか、
わからないくらい好きって言うてくれた。

わたしって、あいされているな。

好きって言うてくれてありがとう。

わたしもお母さんのこと、好きだからね。

佳 作

静岡市立横内小学校 6年 山本 琴音

「呼び続けるよ いつまでも」

「お父さん」「お母さん」

何千回、何万回そう呼んだだろう

大きな両手でギュツとしてもらうと

幼かったあの日に戻る

「お父さん」「お母さん」

ねえ覚えてる？

3人で手をつないで歩いたあの小道

まだの残っているのかな

肩車してもらおうと別世界のように感じたよ

父の背中は広くていつの間にか寝てたっけ

毎日横で添い寝をしてくれた母

ゆっくり聞こえるその鼓動が

私の涙をやすらかな寝息に変えてくれた

「お父さん」「お母さん」

これからも呼び続けるよいつまでも

佳 作

静岡市立梅ヶ島小学校 4年 岩崎 倭

いつもお仕事
食器あらい
ゴシゴシゴシゴシ

たくさん料理
達人みたい

けむりがもかもか
たくさん出てくる

とてもしんけん
かっこいい
いつもがんばる

そんなお父さんに
ぼくもなりたい

佳 作

静岡市立服織西小学校 6年 中川 玲菜

「毎日ありがとう」

聞こえるよ

ジャバジャバと

なにかを洗う

水の音

毎日聞こえる水の音

聞こえるよ

ドタドタと

ゆかをならす

足の音

毎日聞こえる足の音

聞こえるね

毎日たくさんの音

お母さん

おつかれ様

佳 作

静岡市立中藁科小学校 4年 和田 颯馬

ぼくのじいじは、
考えると人指し指を
ぺろつとする。

しよぎをやつてると

ぺろつ

野菜をうえると、

ぺろつ

まだおもいつかないと
料理をすると

ぺろつ

川へいってもいい

ぺろつ

まだ思いつかないと

ぺろぺろつ

三度目は

おもいついた！

佳 作

静岡市立東源台小学校 6年 佐々木 亮

「『大好き』は愛してる証」

お母さんにしかられた時の

一言は重い

とても重い

(きらわれた)

そう思うと

悲しくなって

泣きたくなって

だけどその後の

「大好き」の一言は

まほうのように

僕の心を温める

(きらいじゃないんだ)

そう思ったら

うれしくなって

っっ楽しくなって

僕って

こんなにも愛されてるんだ

そのことを僕に教えた

「大好き」の一言

佳 作

静岡市立清水浜田小学校 4年 鈴木 咲代桂

「わたしの世界で一人だけのお母さん」

わたしが
お兄ちゃんどけんかした時、
わたしがけがをして泣いた時、
お母さんはいつも、
わたしをだきしめて
なぐさめてくれた。
お母さんにだかれると、
なぜかおちつく。

やっぱりお母さんは、
わたしのお母さんだからだと
わたしは思う。
なんだかうれしいな。

佳 作

静岡市立清水岡小学校 4年 前本 貴未花

「楽しい日曜日」

日曜日にお母さんと

料理を作るのが

とても楽しい

お母さんは

とてもやさしく

おしえてくれる。

ギョウザの具

きざんだキャベツ

ひき肉 ニラが

皮の外に顔を出す。

そんな時

お母さんとわたしは

おとなしく皮の中に

「入って」と言っ

ぎゅっとおしこむ

とっても楽しい日曜日。

佳作

静岡市立清水三保第一小学校 4年 柴 満梨菜

「お母さんへ」

毎日毎日、

私を「好きだよ。」って

言ってくれて、ありがとう。

好きって言うのって大切なんだね。

どこからか、うれしくなるよ。

お母さんの、

「がんばって！」

も、体のそこから

元気が出てくるよ。

お母さんの

「がんばって！」

があったから、

のりこえられたかべがいくつも、あるよ。

ありがとう。

佳 作

静岡市立清水庵原小学校 4年 望月 紀里

お母さんの手って小さいね。

もうすぐで、私の手がおいつきそう。

でも、お母さんの手って、すごいんだよ。なんでも作れる、まほうの手。

お母さんの手は、やさしい手。

頭をなでもらうと、幸せになれるよ。

お母さんの手は温かい。すぐに手をつなぎたくなる。だって、すごく安心するんだ。

お母さんの手、大好き。

佳 作

静岡市立城内中学校 2年 寺家村 純奈

いつもきびしく
ときどき優しく
子どもを守ってくれる
そんなあなたは家では王様
都合の悪いことは無視をして
家の電話を独り占め
兄と私を比べては、
ぐちぐちぐちぐち文句を言う
でもね、いつも私に勇気をくれるの
正しい答えを教えてください
笑顔で優しく「がんばって。」
水泳のタイムが速くなる
方法いろいろ考えて
私のサポートしてくれる
そんなお母さんが大好きです。
自分のことより子供のことを
考えていつも背中を押してくれて
「ありがとう」

佳 作

静岡市立観山中学校 2年 伊橋 泰誠

僕のお母さんが帰ってくるのは
いつも六時すぎ

電話がかかってきて

「ご飯炊いといて」

と言われてしぶしぶご飯を炊く

お母さんが帰ってくる

ご飯を炊いただけなのに

「ありがとう」

と言ってくれる

いつもつらい仕事してから

家事もしっかりして

だれにも「ありがとう」

と言ってもらえないのに

お母さんすごいな

そして

お母さんいつも

「ありがとう」

佳 作

静岡市立大里中学校 2年 深野 千晴

「ありがとう」

いつも「ありがとう」と思っているけど、
照れくさくて言えないんだ。

母の日に数週間前から用意したアクセサリーだって、

「ありがとう」なしじゃただの物。

だけど、毎日つけてくれて、

また「ありがとう」

不安な時は一番の味方
けんか中は一番の敵

だけど、そんなお母さんだからこそ、
今の私はここにいます。

お母さん、私もいつか言うからね。

今まで分、十四年分の

「ありがとう」